



滑川市早月加積地区 2015年7月13日

## 48年前の母校焼失、写真と紙面を寄贈 滑川・早月加積小卒の小善さん



### ■統合の滑川市東部小に

滑川市東部小学校（同市四ツ屋）に13日、同校の前身で1967（昭和42）年に火災で焼失した早月加積小学校の写真が贈られた。地元の写真愛好家、小善（しょうぜん）正由さん（77）＝同市大掛＝が火災翌日に撮ったモノクロの4点で、当時の様子を生々しく伝える。火災を報じた北日本新聞紙面と共に寄贈した小善さんは「失われた学校の歴史を後世に伝えてほしい」と話している。

滑川市追分にあった早月加積小の校舎は1917（大正6）年に建てられ、小善さんも学んだ。48年前の火災は4月29日の土曜に発生。木造校舎の大半が焼け、北日本新聞は「老朽校舎瞬く間に」「泣きくずれる児童たち どこで勉強するの…」との見出しで報じた。翌年、学校は浜加積小と統合し東部小となった。

「ショックだった。写真に残しておかねばと思った」。小善さんはそう振り返る。火災翌日、愛機「ローライフレックス」で、無残な姿となった校舎の内外を撮影した。

今回の寄贈は、地元の滑川署早月加積駐在所の畠平実巡查部長（34）が小善さんから写真の話を聞き、提案した。「火災のことは知っていたが初めて見る写真だった。貴重な資料だと思った」と言う。

東部小は3年後、創立50年の節目を迎える。写真のパネルを受け取った深川善弘校長（56）は「学校にもない写真だと思う。何らかの形で児童や地域の皆さんに見てもらうことも考えたい」と話した。